

相 双 「食」と「ふるさと」 新生運動ニュース

No.23 令和元年9月
福島県相双農林事務所



新地町のいちじく

根本友子さん（大熊町）が令和元年度春の叙勲を受章されました！

令和元年春の叙勲が5月21日付けで発令され、大熊町農業委員会会長の根本友子さんが受章の栄に浴されました。

根本さんは、平成20年7月から県内唯一の女性農業委員会会長として、農地法の的確な執行や耕作放棄地解消などに成果を上げ、町の基幹産業である農業の振興に大きく貢献されてきました。

また、東京電力福島第一原発事故後に農業委員会が会津若松市に避難を余儀なくされた後も、リーダーシップを発揮して2ヶ月後には農業委員会業務を再開し、農家の支援に尽力されたことなどが評価され、この度、旭日単光章を受章されました。

根本さんが会長を務められる「大熊町ひまわりプロジェクト」が、避難先で採取した種を蒔いて、町内に咲かせたひまわりは、町民の方の帰還への希望となっています。

今後も、東日本大震災からの復興や地域農業のさらなる発展のためご活躍くださることをご期待申し上げます。



旭日単光章を受章された根本友子会長（右）と相双農林事務所大波所長

（企画部）

チェーンソー技術で相馬地方森林組合職員が全国上位を独占

令和元年7月13～14日、鳥取市で開催された「ハクスバーナ杯 伐木チャンピオンシップ」のチャレンジMクラスにおいて、相馬地方森林組合職員が一位から五位の上位を独占する快挙を成し遂げました。この大会はチェーンソーを用いた伐木造材と安全確保の技術を競う競技会であり、簡易伐倒、丸太合わせ切り、枝払いの3種目でスピードや、正確性等が競われます。

チャレンジMクラスはアスリートAクラスに次ぐ高度なクラスで、優勝は高橋真也さん、二位は但野勝久さん、三位は中井田拓也さん、四位は松本公浩さん、五位は佐藤盛人さんが受賞し、上位を相馬地方森林組合の職員が独占する栄誉となりました。優勝者の高橋さんは「さらにも上のクラスを目指して頑張りたい」と意欲的なお話をされました。

今後も、林業のそれぞれの持ち場における技術の向上と、さらなるご活躍を期待しております。

(森林林業部)



受賞者の皆様

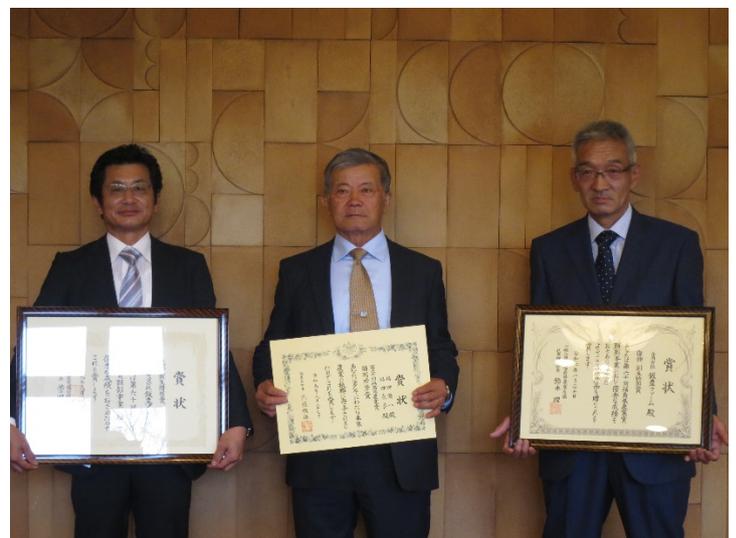
第60回福島県農業賞を受賞されました

令和元年8月27日に第60回福島県農業賞の表彰式が行われました。管内では、復興・創生特別賞を相馬市の「合同会社飯豊ファーム」が、特別功労賞を南相馬市の「福田栄一さん・京子さんご夫妻」がそれぞれ受賞されました。

合同会社飯豊ファームは東日本大震災後の平成24年に設立され、津波被災農地を中心に、大豆や小麦、水稻を作付けしており、津波被災農地の復興に大きく寄与し、震災からの復興・創生を実現させるためのモデルとなったことが評価されての受賞となりました。

福田さんご夫妻は平成15年に第44回福島県農業賞にて農業経営改善部門を受賞しており、東日本大震災の後も生産者が減少する中でブロッコリーの生産を続け、ブロッコリーの産地再興に寄与したこと、また、新規就農者に対して技術指導や機械の貸与によりたまねぎの産地化に寄与したことが評価されての受賞となりました。

今後も、本県農業の発展と震災からの復興・創生に向けてさらなるご活躍を期待しております。



受賞された合同会社飯豊ファーム竹澤代表（左）
福田栄一さん（中）
合同会社飯豊ファーム小野内業務執行社員（右）

(企画部)



広野地区のほ場整備工事が着実に前進しています

広野町「広野地区」は、福島第一原子力発電所から30km圏内にあり、原発事故により「緊急時避難準備区域」に指定された地域です。

本地区は、起伏が大きい中山間地域にあり、整備前の水田の区画面積は10～20aと狭小で水路等の維持管理にも多大な労力を要していたほか、原発事故の影響により営農再開も厳しい状況が続いていましたが、避難住民の早期帰還を促進するため、農山村地域復興基盤総合整備事業（中山間地域総合整備事業（生産基盤型））「広野地区」として、平成30年度にほ場整備工事に着手しました。

工事の実施にあたり、工区ごとに説明会を開催し、「通常、畦（あぜ）の幅は30cmですが地形特性に応じた工区ごとの畦幅（40cm、50cm）の設定」や「草刈り面積を極力少なくする農道勾配の設定」など、将来の維持管理に配慮した施工について、地元と話し合いながら工事を進めています。

来年度から、工事を実施した区域で初めて作付けが可能となる見込みです。今後も、地元との話し合いを重ね、将来の維持管理が少しでも容易になるよう工夫しながら、関係機関が一丸となってほ場整備工事を進めてまいります。

（農村整備部）



左側が稲刈後工事予定、
右側が工事中
（亀ヶ崎工区）

親子で遊ぶ・学ぶオーガニック（有機栽培） じゃがいも掘りとり体験会を開催しました

双葉農業普及所の有機農業担当職員は、新地町からいわき市まで浜通り全域で有機農業の推進を担当しています。

有機農業は、しっかり生産することはもちろんですが、消費者の方にいかにして特徴を理解して生産物を買っていただくかも大きな課題としてあげられます。そこで、令和元年7月25日（木）、子育て世代を対象とした、「親子で遊ぶ・学ぶオーガニック（有機栽培）じゃがいも掘りとり体験会」を開催したところ、いわき市の学校法人明照学園九品寺こども園及び九品寺附属平窪幼稚園児と保護者合わせて60名の方々に参加いただきました。

当日は、保護者の方々を対象に有機農業と有機JASマークに関する座学を開催した後に、いわき市平下大越の「いわき夏井ふぁーむ」小林さんの有機じゃがいもほ場で収穫体験と試食を行いました。普段はじゃがいもをあまり食べないお子さんも喜んで食べていたことから、有機じゃがいもの美味しさとともに、有機農業への理解を深めていただけたことと思います。

今後も浜通りの有機農産物の生産と消費拡大に向けて取り組んでまいります。



じゃがいもの収穫



参加者全員での記念撮影

（双葉農業普及所）





「第45回福島県緑の少年団大会」が開催されました

令和元年7月29日、大玉村農村環境改善センターにおいて、第45回福島県緑の少年団大会が開催されました。式典には県内の緑の少年団12団130名が参加し、第40回福島県緑の少年団活動実績発表大会の受賞団表彰、知事賞受賞団による活動発表、苗木の贈呈が行われ、大会の最後に代表者による誓いの言葉が述べられました。

相馬地方からは、相馬市立山上小学校緑の少年団と大甕緑の少年団が参加し、活動実績発表大会表彰では、相馬市立山上小学校緑の少年団が「緑の少年団育成協議会長賞」を、大甕緑の少年団が「奨励賞」を受賞されました。

また、午後にはふくしま県民の森において体験交流活動が行われ、団員たちはもりの案内人の指導により自然観察や樹名板の設置、そして木工クラフトを体験しました。

一日を通じ、蒸し暑い中での活動でしたが、緑の少年団の児童たちは元気に楽しみながら活動に取り組んでいました。

当所では、今後とも、森林への親しみと学習を通じ、緑の少年団の活動への支援を行ってまいります。



相馬市立山上小学校緑の少年団の表彰



大甕緑の少年団自然観察
(森林林業部)

女性パトロール隊が職場環境改善のため巡回を実施しました

令和元年6月12日に福島県建設業協会相馬支部主催で、女性目線による職場環境の改善を目的として「女性環境パトロール隊」による第5回パトロールが実施されました。相双農林事務所からも若手女性職員が参加し、福島県立相馬支援学校や福島ロボットテストフィールドの工事現場をパトロールしました。

巡視後の講評では、「場内に喫煙所を設置していますが、窓を開けると休憩室まで匂いが入ってきます。」や「掲示板やその他各所に『手書きの標語』が掲示され、心が通った良い施策である。」など、女性ならではの意見がなされ、現場からは、「早急に匂い対策を講じます。」との声も上がりました。

当所では、建設現場でも、働きやすい職場づくりを目指してまいります。



南相馬合同庁舎玄関前の出発式



(農村整備部) 福島ロボットテストフィールドのパトロール状況





新規就農者確保に向けた取組を強化しています

農業振興普及部・双葉農業普及所では、相双地域の持続的な農業の発展を目指して、関係機関、団体と連携して、県内外からの新規就農者の確保や企業参入の取組を積極的に進めています。

今年度は、市町村やJAと県等を構成員とする「相双地域新規就農・企業参入推進検討会議」において、「動きだそう、歩きだそう、耕そう、相双」を合い言葉に、新たな農業者確保に向け、「相双就農ポータルサイト (<https://sousou-nougyo.jp/index.html>)」等により、イベント情報や市町村 PR 記事を掲載する等の情報発信を行っているほか、就農関係フェアへの出展、就農希望者を対象とした管内へのバスツアー等を計画しています。

「就農関係フェア」は、7月6日・8月4日の2回、東京・仙台を会場に管内の市町村やJAとともに出展し、いずれも5～10名のブースへの訪問がありました。今後も、9月から12月にかけて、東京・仙台にて、管内の9団体が出展する予定です。

「バスツアー」は、8月31日～9月1日に第1回目を実施しました。首都圏や宮城県から7名の参加があり、参加者は、飯舘村、南相馬市、浪江町の生産者や直売所等から、農業経営に関する話を聞き、簡単な農作業を体験しました。また、同市町村から、就農に向けた支援策の紹介と、先輩就農者の講話をいただきました。参加者からは、「就農に向けた第一歩を踏み出せた」「また来てみたい」といった感想が寄せられました。第2回目は、10月末に実施の予定です。



令和元年8月4日就農関係フェア（東京）
（JAふくしま未来・飯舘村）



令和元年9月1日ねぎほ場での作業体験
（南相馬市）
（農業振興普及部）

大熊町でキノコ栽培研修を実施しました

令和元年7月9日(火)に大熊町の「おおくま未来」さんのご協力のもとキノコ栽培研修を開催し、同町や当所等から11名が参加しました。

研修では、原木マイタケ100玉、菌床キクラゲ220玉をそれぞれ伏せ込み、発生操作作業を行いました。周辺環境から放射性物質の入り込みを防ぐため、すべてハウス内での栽培となり、参加者は大汗をかきながらの実習でした。

原木マイタケの伏せ込みは、ハウス内の床に木枠を組んでマイタケほど木を並べ、購入土で覆土しました。菌床キクラゲは発生棚に菌床を並べ、菌床側面の袋をカットしてキノコの発生を促しました。原木マイタケは10月頃、菌床マイタケは1～2週間で発生する予定です。

相双地方の野生キノコは引き続き出荷が制限されておりますので、秋の味覚は安全が確認された栽培キノコを楽しまれてはいかがでしょうか。



原木マイタケ伏せ込み



菌床キクラゲ収穫

（富岡林業指導所）





所内若手職員研修会を実施しました

当所では例年、新規採用職員を中心とした若手職員を対象に、所内研修会を実施しており、今年度は3回実施する予定です。

1回目の6月4日は、まず大波所長から「農林事務所に与えられた仕事」について講話があり、次に総務部よりコンプライアンスや仕事の進め方等の説明がありました。続いて福島県農林水産部における主要施策、相双地方における農林業の現状について企画部から説明を行いました。

2回目の7月17日は現地視察を行いました。農村整備部が担当する農地海岸災害復旧事業やほ場整備事業、森林林業部が担当する海岸防災林造成事業の現場を見学し、事業内容や震災当時の様子について話を聞きました。

3回目は、農業振興普及部が担当する米の全量全袋検査などの見学を10月に実施する予定です。

これらの研修により、同じ農林事務所の中でも他の部でどのような事業が行われているのかを知る機会となり、若手職員の農林業施策に関する知識習得と、所内のヨコの連携意識を高めることにつながっています。



所長講話



農村整備部の事業説明
(総務部)

そうそう・6次化フェアについて

相双地域の地域産業6次化推進を目的として、「そうそう・6次化フェア」を第1回：6月22日（土）にヨークベニマル原町西店、第2回：6月29日（土）にセデッテかしまにてそれぞれ開催いたしました。

第1回は「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンと共同で開催し、一般社団法人南相馬農地再生協議会と福島県立相馬農業高等学校が出展しました。

当日は、お買い物に来ていた多くの方に商品を実際に手に取ってもらい、地元製品のPRができました。

第2回は相馬地方農産物直売所連絡協議会主催の「夏野菜合同直売会」と共同で開催し、まちなか広場市民市場と福島県立小高産業技術高等学校が出展しました。

当日は観光客を中心に注目を集め、相双地域の伝統的な産品を県内外の方にPRできました。

11月にはセデッテかしまにてフェアを開催いたしますので、是非ともお越しください。

開催日：令和元年11月2日(土)

9：30から13：00頃

(時間については変更の可能性があります。)

場 所：セデッテかしま

(福島県南相馬市鹿島区浮田字榎木沢212-1)

(企画部)



第1回 相馬農業高等学校



第2回 小高産業技術高等学校





“おいしい ふくしま いただきます！” キャンペーンについて

令和元年6月22日(土)に南相馬市のヨークベニマル原町西店において、県産農林水産物の風評払拭と販売促進を目的とした、“おいしい ふくしま いただきます！” キャンペーンを開催しました。

当日は大勢の参加者で賑わい大盛況のうちにキャンペーンを終えることができました。

10月には「ふたばワールド」内で同キャンペーンを再び開催する予定です。この機会に安心・安全な県産野菜をご賞味ください。



6月22日キャンペーンの抽選会 (企画部)

開催日：令和元年10月5日(土)

10:00から15:00頃

(プレゼントがなくなり次第終了)

場 所：JFAナショナルトレーニングセンター

Jヴィレッジ

(福島県双葉郡楢葉町山田岡字美ツ森8)

トピックス～ふたば未来学園「カフェ ふう」オープン!～

広野町の福島県立ふたば未来学園の校舎内に6月17日生徒が運営する「カフェ ふう」がオープンしました。

○カフェの特徴

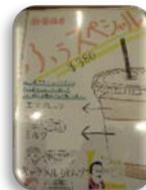
校舎内に店舗を構える「カフェ ふう」では木目を基調とする、ゆったりとした空間で、生徒が開発した、ガレットやマドレーヌ等のお菓子に加え、コーヒー等のドリンク類にフォッカチャ等のフード類といった充実の品を楽しめます。



○イチオシは「ふうスペシャル」

運営する生徒のイチオシ商品はエスプレッソ、ミルク、キャラメルの3段の層からなるドリンク「ふうスペシャル」

甘みと苦みのバランスがとてもよいです。



○最後に…

一般の方の入店も可能ですので、是非お気軽にいらしてください。他では味わうことのできない高校生ならではの商品がたくさんあります。

「Café ふう」

住所 福島県双葉郡広野町中央台一丁目6番地3

(福島県立ふたば未来学園内)

電話 0240-23-6825

営業時間 11時～18時(スタッフの都合により変更となる場合がございます)



相双農林事務所からのお知らせ

相双地方では、福島第一原子力発電所事故の影響で農林水産物の摂取・出荷制限指示が出されています。

これからの季節には、クリ、カキ、ユズ等の果実類、野菜類、きのこ類が収穫時期を迎えますが、摂取や出荷に当たっては、摂取・出荷制限指示の有無の確認をお願いいたします。

摂取・出荷制限指示の有無については、以下のURLから確認できます。

『摂取や出荷等を差し控えるよう要請している福島県産の食品について』

※ふくしま復興ステーションHP内：<https://www.new-fukushima.jp/storage/pdf/subject.pdf>

農作物の出荷制限についてのお問い合わせは下記までご連絡ください。

～野菜類、果実類～

・相馬地方
福島県相双農林事務所 農業振興普及部
経営支援課 電話 0244-26-1151

・双葉地方
福島県相双農林事務所 双葉農業普及所
経営支援課 電話 0240-23-6474

～山菜類、きのこ類～

・相馬地方
福島県相双農林事務所 森林林業部
林業課 電話 0244-26-4305

・双葉地方
福島県相双農林事務所 富岡林業指導所
電話 0240-23-6084

表紙の写真について

新地町特産のいちじくは8月下旬から、9月にかけて収穫の時期を迎えます。収穫したいちじくは、主に加工用として出荷されます。

新地町「味菜ひろば よりみち」では、いちじくを使ったカレー「しんちゃんカレー」や中にいちじくをまるごと入れた「いちじくあんまん」を販売しています。この機会に是非お試しください。

「味菜ひろば よりみち」

住所 福島県新地町谷地小屋字樋掛田6-1

電話 0244-62-5588



しんちゃんカレー



いちじくあんまん

※いちじくあんまんは平成30年度「そうそう・6次化ラボ」事業で開発した試作品を商品化したものです。



福島県相双農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒975-0031 福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
Tel : 0244-26-1153 Fax : 0244-26-1181
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36260a/>
E-mail kikaku.af06@pref.fukushima.lg.jp